

1. 幼稚園の運営

- (1) 所在地：水戸市緑町三丁目九番 36 号
- (2) 定員：140 名 利用定員(水戸市に報告定員)：90 名
- (3) 職員数：23 名 (内 1 名育休中～11 月復帰) (内 3 名年度途中から産休育休取得)
常 勤(13 名)：理事長 1 名、園長 1 名、主任教諭 1 名、教諭 10 名 (内 3 名短時間)
非常勤(10 名)：教諭 2 名、管理栄養士 1 名、調理員 4 名、運転手 3 名 (内 1 名 9 月退職)
バス添乗スタッフ 1 名 (10 月より勤務)
- (4) 嘱託医：朴秀吉 (内科)、横須賀均 (歯科)
- (5) 理事：理事長＝松本智昌 理事＝松本晴子 (業務執行理事)、小山哲司、小山祐子、
星野光利、星野吟子(逝去)
- (6) 監事：萩野谷興、安昌美
- (7) 評議員：松本智昌、鈴木ゆかり、小池貞、横須賀均、小山祐子、真中恵美
松本晴子、星野光利、金丸隆太、高野秀樹、藤山修、岡崎沙希

2. 教育理念 神様に愛されている幼子、そして育てている保護者が喜びに満たされる生活を
送れるように、今を大切に生きること。

年間テーマ

『 ともにつむぎだす ～希望の中で～ 』

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも また 近くにいる人々にも
平和の福音を告げ知らされました。 エフェソの信徒への手紙 2 章 17 節

教育課程

- 一学期**： 出会いが保障され、出会いが意識化されることによって、喜んで自分の存在を受け
容れてくれる存在がいることを、知っていく。
- 二学期**： 自然の中に感動を得、物事への興味を育み、他者を含め共に生きる存在が
いることを前向きに喜んでいく。
- 三学期**： 自分を前向きに捉え、自分と違う存在が居ていいという肯定感を持ちつつ、
仲間と共に何かを創りあげていく喜びを知る。

3. 保育時間

- 通常保育： 8 時 30 分～14 時
一時預かり保育： 8 時から 8 時 30 分。保育終了後～18 時 (長期休業 8 時～18 時)

4. 職員と園児数

- (1) 幼稚園教諭採用なし 産休育休 3 名 (各 10 月・11 月・2 月～) 退職 1 名 (運転手)
- (2) 園児数月ごと変化 68 名－68－68－70－70－72－72－74－74－73－74－75

5. 主な行事 / 金曜日 礼拝 / 月ごとに 誕生会 / 各避難訓練

一学期	二学期	三学期
入園式	新入児二者面談 遠足	学校見学
親子遠足	運動会	積木ワークショップ
植物栽培／クッキング	さつまいも堀遠足	もてなしクッキング
木工	クッキング	
保育参観	消防署訪問	ひなまつり会
プール	観劇会(劇団風の子)	親子給食会食会
日帰りキャンプ	クリスマス会	歩く会
個人面談	親子陶芸(子育て支援事業)	卒園・終了式

6. その他の活動

入園説明会

にじいろチャイルドの会 園児観察・コンサルテーション各3回・保育者講座2回

保護者対象3回 (茨城大学 金丸隆太先生)

おはなしはらっぱ 年長児対象 実施回数9回 (茨城キリスト教大学 原口なおみ先生)

未就園児親子くらぶ (つくしっこくらぶ) 実施回数12回

子育て相談 開催回数8回

園庭開放 (木もれびの庭) 7回

ホームページの更新

ぎゅっとナビ(園関係者のみ閲覧)にドキュメンテーションアップ

教育実習生受け入れ なし

業者によるネット写真販売の他に、新規で業者の行事の動画撮影と販売 (希望者向け)

7. 2023年度の主な環境に関わる支出経費

園庭剪定費用・桜の手入れ 砂場用砂 木製乗り物セット 身長計 AED 新規入れ替え

園バス置き去防止ブザー3台分

8. 2023年度の保育評価

満3歳児から5歳児までの混合クラスが3クラス。2023年度はコロナの扱いが5類になるということで、登園の許可が変わり一気に園任せ、園長の判断という社会となる。マスク着用により、多くの専門家が危惧していた言葉やコミュニケーションの遅れは個人では相対的に見当たらず、未来はわからないものなのに大いに言説に振り回されたという感想である。

目標1の子どもに対して柔軟な対話のある関係性を目指す取り組みは、子どもの尊厳を尊重し、本人の言葉にならない声に耳を傾け、やりたいことの実現に力を尽くす保育者の姿が出てきている。

目標2の保護者が子どもの発達を理解していく支援は、まだまだ課題が多い。保育者が保護者との距離を縮めることと、保護者が子ども理解が深まったかは別物であること。園に送迎する方に重きを置きがちであったことは、保育者の状況ではあった。

目標3の職員同士の対話のある人間関係から働きやすい環境を試行する取り組みは、共有LINEの有効性もあって、色々な使い方が試され気軽に発信することができるようになってきた。確認のしやすさも職員の声である。一方対面での対話が減少したのではないか。話すことがプラスのス

トロークになるので、時間を決めて対話するや、不案内なことは諦めずに話しあう関係性が使い分けられるとよいということで、次年度に向かっている。

個別支援の多くの支援児と共によりよい保育に精進したと思う。医療的ケアのお子さん、保護者の要望で同伴のお子さんなども卒園し、小学校に委ねた次第である。個別支援の方を受け入れているにもかかわらず人材の不十分さは課題であるが、補助金収入の減少により人は増やせない現状である。

食物アレルギーでの対応は、引き続き個別対応を徹底した。

園児募集は個別支援を求める保護者や小集団で手厚さを求める方のお子さんが申し込む。

満3歳児は8名。3歳児は8名。4歳児4名。5歳児1名の申し込みがあった。2024年度在籍数は減少となる。